

令和5年第5回総務文教常任委員会 要点記録

開閉会日時		令和5年6月21日（水曜日）		開会	13:25	会議場所		別海町議会 議場		
				閉会	15:03					
委員の出欠		1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	8 番	田村 秀男	出席
		14 番	佐藤 初雄	出席	15 番	戸田 憲悦	出席			
出席説明員	総務部	総務部長		総務部次長兼総務課長		総合政策課長		情報化推進室長		
		伊藤 輝幸	出席	寺尾真太郎	出席	松本 博史	出席	山田 哲哉	欠席	
		財政課長		税務課長		防災・基地対策課長		尾岱沼支所長		
		角川 具哉	出席	竹中 利哉	出席	岩口 裕昭	出席	大坂 恒夫	欠席	
		西春別支所長		総務課主幹		総務課主幹		総合政策課主幹		
		小村 茂	欠席	佐藤 亮	欠席	武田 聖士	出席	佐藤 貴也	出席	
		税務課主幹		防災・基地対策課防災監		防災・基地対策課主幹		防災・基地対策課主幹		
		伊藤 武史	欠席	三瓶 秀憲	欠席	深川 淳一	出席	橋本 達也	出席	
		総合政策課主査		財政課主査		税務課主査		防災・基地対策課主査		
		人羅 茜	出席	高橋 克彦	欠席	竹本 誠	出席	寺澤 淳司	欠席	
	選挙管理 委員会	書記長		書記						
		寺尾真太郎	出席	佐藤 亮	欠席					
	別海 消防署	別海消防署長		別海消防署副署長		別海消防署副署長兼予防課長		別海消防署警防課長		
		山田 勝人	欠席	山桑 貴光	欠席	西塚 隆幸	欠席	太田 裕司	欠席	
	教育 委員会	教育部長		生涯学習センター長兼中央公民館長		学務・スポーツ課長		指導主幹		
		宮本 栄一	出席	福原 義人	出席	斎藤 陽	出席	稲村 和典	欠席	
		指導参事		学校教育課長兼学校給食センター長		生涯学習課長		西公民館長		
		吉光寺 勝己	欠席	池田 卓也	出席	木戸口 誠	出席	小村 茂	出席	
		東公民館長		図書館長・郷土資料館長他		学務・スポーツ課主幹		学務・スポーツ課主幹		
		大坂 恒夫	出席	堺 啓	出席	高津 寛人	出席	恒川 敦史	出席	
		学校教育課主幹		中央公民館副館長		西公民館副館長		東公民館副館長		
		堀込 美穂	出席	今野 学	欠席	佐藤 政士	欠席	立澤 雅彦	欠席	
		郷土資料館副館長		郷土資料館主幹		学務・スポーツ課主査		学校教育課主査		
		石渡 一人	欠席	戸田 博史	欠席	武田 文吉	出席	高橋 美香	欠席	
		生涯学習課主査		学校給食センター主査		図書館主査				
		上杉 大洋	欠席	平下 奈津子	欠席	吉田 美奈子	欠席			
		委員外の出席						合計		0名
		事務局職員		局長	干場 富夫			合計		1名
		傍聴者数		一般	0名	報道関係者	0名	合計		0名

令和5年第5回総務文教常任委員会 要点記録

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長 14番 佐藤	13:25 開会
	出席委員5名、会期1日
	挨拶
	【総務部所管事務調査】
総務部長 伊藤	挨拶及び概要説明
	・本日の委員会では、その他の中で「令和4年度防衛省所管事業の実施実績について」、並びに「令和4年度町税徴収実績について」を説明させていただく。また、定例会に提出している「議案第55号」及び「議案第56号」について、委員から質問があればお答えさせていただきます。
委員長 14番 佐藤	議事2 その他
	(1) 令和4年度防衛省所管事業の実施実績について
防災・基地対策課主幹 橋本	・資料により説明
	・2ページの防衛施設周辺年度別補助金・交付金は、昭和34年からの年度別資料となる。左から2列目の「基地交付金」は、固定資産税の代替的な性格を持ったものであり、自衛隊が所有する演習場や飛行場などを対象として、その所在市町村に交付されている。本町においては、陸上自衛隊矢臼別演習場及び航空自衛隊計根別飛行場が対象の固定資産となっている。
	・左から7例目の「調整交付金」では、平成9年度からの「括弧書き」は沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散実施分で、右側に記載している全体交付金額の内数として記載している。
	・右から4列目の「防音関連維持費」は、防音事業で整備した町内の保育園3園・幼稚園1園及び小中学校6校に設置した、空調設備に係る電気料に対する補助金となる。
委員長 14番 佐藤	質疑
副委員長 8番 田村	・2、3点伺いたい。「再編関連訓練移転等交付金」は新しい言葉だが、この算定の基礎・基準やその仕組みのほか、この1億1000万の補助金が今後どのように推移していくのか伺う。
	・2ページの「SACO分」は、「空白」の箇所は、海兵隊の移転訓練が行われなかったから無いのか、そこら辺の経過を教えてください。
防災・基地対策課長 岩口	・「再編関連訓練移転等交付金」は、新しい訓練や施設建設など、在日米軍の再編に伴う負担を受け入れた市町村を、再編関連特定周辺市町村として指定し、それらの市町村に対し交付する交付金で、滞留軍等の再編の円滑な実施に関する特別措置法に定められている。再編関連訓練移転等交付金交付要綱では、オスプレイの訓練移転等に係る交付金の交付額との規定があり、日米共同訓練において普天間飛行場に所在するオスプレイを使用した訓練移転等が実施された飛行場及び演習場が存在する市町村に対し交付金が交付される。本町では昨年度実施された日米共同訓練において、矢臼別演習場及び計根別場外離着陸場でのオスプレイの訓練が実施されていることから、この訓練実績による交付金となっている。また、この交付金額の算定については、全国で実施する市町村に対して、防衛予算の中から、案分・配当される。算出の方法等根拠については示されていない。
防災・基地対策課主幹 橋本	・「SACO分」の空白は、移転訓練が実施されない年度につきましても、当初は満額ではないものの交付されていたが、平成23年度からは訓練が計画されない場合は交付されないこととなっている。
副委員長 8番 田村	・「SACO分」は、やはり海兵隊の訓練が行われないと貰えないという理解で良いか。そうすると、もう6回は別海町で連続で行われてるっていうことの理解で良いか。
防災・基地対策課主幹 橋本	・「SACO分」は、訓練自体が行われなかった部分もあるが、計画はされているということで昨今は引き続き交付されている状況。
委員長 14番 佐藤	・他に質疑あるか。

令和5年第5回総務文教常任委員会 要点記録

委員	一同	・質疑なし
委員長	14番 佐藤	(2) 令和4年度町税徴収実績について
税務課長	竹中	・資料により説明
		・税務課としては、これまで自主納税・納期内納税を呼びかけてきたが、コンビニなどで支払われる納付方法の選択肢が増えたこともあり、加えて納税者の納税意識の向上などが徴収率の向上につながっているものと考えている。
副委員長	8番 田村	・滞納繰越分が3割位残っているが、このうち滞納整理機構にお願いする額がわかれば教えてください。
		滞納整理機構へ引き続く金額については、資料を持ち合わせていなく今お答えできない。
税務課長	竹中	・他に質疑あるか。
委員長	14番 佐藤	・質疑なし
委員	一同	・「議案第55号」及び「議案第56号」について、質疑はあるか。
委員長	14番 佐藤	・質疑なし
委員	一同	・所管事務調査など全体をとおして何かあれば、せっかくの機会なので。
委員長	14番 佐藤	今回、辺地の整備計画で5つの新しい計画を議案として出したが、別海町にはいくつの辺地があって、その内新しいものが5つだが、5カ年計画なので、継続で変更でやっている辺地が幾つあるかを教えてください。
副委員長	8番 田村	・先に、区域設定については境界設定しており、例えば、別海町美原は美原辺地、別海町上春別は上春別辺地と設定している。令和5年3月31日現在で辺地に該当する地域は14地域ある。その内今回5件の継続の計画を議案で出しているが、13区域で、総合整備計画が策定されており、1区域が策定されてない状況で、その1区域は走古丹辺地で、走古丹については、今現在辺地の計画を立てて整備しなければいけない施設等が無く、今後出てきた時に改めて新規という形で策定していく予定。全て基本的には、継続して5年間計画が終わったらまた新たに継続で策定しており、繋がった形で進んできているという状況。
財政課長	角川	・辺地債を充当し計画を立てる中で、例えば今回「ひとみ12号」の更新をする際はあがってくるが、例えば、給食センターのように、別海で給食を作ってそこから辺地の学校に運んでいるが、そういったものも対象になるかお聞きしたい。
		・給食センターは別海市街地にあり、別海市街地については辺地区域になっていない。基本的にその地域にある施設で地域の方が使うものについて、辺地をより便利に生活してもらうために施設等整備するというものなので、その地域に建つものが基本となるが、全町的な施設で対象になる部分としては、別海町の中で辺地にある小学校や中学生などの〇〇分の割合が対象にはできと思うが、別海地区に4割位の小中学生の子供たちがいるが、そういう部分については辺地債の対象にならない。
副委員長	8番 田村	・他に何かあるか。
財政課長	角川	・なし
委員長	14番 佐藤	挨拶
委員	一同	総務部 13:55 終了 休憩
委員長	14番 佐藤	14:05 再開 委員長挨拶
委員長	14番 佐藤	【教育委員会所管事務調査】
教育部長	宮本	挨拶及び概要説明
		・本日は、(1)の小中一貫教育推進計画について説明させていただく。その他では、生涯学習センター等管理運営について、みなくる及び青少年プラザの利用実績状況等の報告、別海町パイロットマラソン大会の開催について口答にて説明させていただく。
委員長	14番 佐藤	議事1 所管事務調査について
		(10) 小中一貫教育及び別海高等学校の魅力向上や支援事業について
学校教育課長	池田	・資料により説明
		・本計画は、町内の小中学校において、義務教育9年間を見通した、学習指導・生徒指導を計画的に行うことにより、学力の向上や中学校進学に伴う環境変化の緩和、異学年交流や多くの教職員との関わりにより、多様な人間関係の形成が期待されることか

令和5年第5回総務文教常任委員会 要点記録

		ら、本町において小中一貫教育を推進する。このことから、本計画を作成し、別海町教育の振興充実を図るため、教育委員会の諮問機関として組織している別海町振興審議会に諮問し審査・審議を行っている。
委員長	14番 佐藤	質疑
委員	2番 吉田	・8ページの「今後の見通し」についてお聞きする。2022年度の「小中一貫教育の説明」交流会の開催、各地域協議会とあるが、地域協議会は全部の地域にあるわけではな と思うがどうか。
学校教育課長	池田	・町教育委員会としては把握してはいないが、CS学校運営協議会の説明、地域協議 会での説明を求められれば、その都度教育委員会として出向いて小中一貫教育等の 説明を行っている状況。
委員	2番 吉田	・今の質問の趣旨は、コミュニティスクール（西春別学校区）の学校運営協議会に 何年かいたが、その時に学校運営協議会と地域協議会が両方ある地区は、コミュニ ティスクールとして3年前位から一体化していると思うが、この辺の立付けというのは、まだ別 海町全体・教育委員会が所管している部分で一体化・均一化はされていないのか。
教育部長	宮本	・教育委員会が関わっているCSの協議会ということで、毎年教育委員会から伺って、 その中で小中一貫教育の関わりの部分がある場合については、説明する状況になっ ている。各地区の協議会の分については、それぞれの地区での判断になると思うので教育 委員会としては、その地区へお任せしている。
委員	2番 吉田	・各学校区のコミュニティスクール、学校運営協議会だが、2026年から準備が整った地 区から小中一貫教育のスタートとあるように、現行（2023年）の各地区の小中一貫 教育に向けた話し合いはどの程度進んでるか、またどこまで把握しているのか、わかってる 範囲でお聞きしたい。
学校教育課長	池田	・各地区で進捗状況は差がある。例えば、もう小中一貫教育を進めていきたいですとか 、まだそこまではいっていないなど、各地区で温度差がある状況。そのことから、昨年も交流 会を実施し各地区のCSの代表者を集合させて、各地区の進捗状況を皆さんで情報共 有する目的で昨年2回実施した。そこで各地区で情報共有してもらって、各CSのほう で情報共有してもらいたいと考えて実施している。
委員	1番 市川	・関連になるかと思うが、例えば、中央小中一貫で耐用年数などにより建物を建て直す 年度があると思うが、その地域の人希望して話し合ってくださいというのわかるが、ある 程度その最終を決めて町側として提示してるのか。
教育部長	宮本	・小中一貫教育は準備が整ったら令和8年度からと言うこと。またハード面については、 例えば、中央校区で言うと、今年の4月に一体型の義務教育学校を要望していますと いうことで、協議会やPTAから要望を受けている。その要望を受け来年度以降という 形にしていくかの準備を今進めている。
委員	1番 市川	・例えば、西春別・上風連で高まっている。西春別も築年数が経っていて、改修が必 要なタイミングかなと思うが、これ以上は建直しや改修が必要な見通しがあると思って、 小中一貫や義務教育型などで新しく校舎を建て直すとか、統合するとかっていうことにな れば、そのタイミングやロスが少ないというか、しっかりした内容を設計できるんじゃないかな と思って、最終こまでは延ばせますけどこれ以上は耐震的に改修が必要で、さらにお金 がかかる時期よみたいのがあれば、地域の人たちも、それだったらそのタイミングまでは考え ようかみたいな目安ができやすいのかなとお伺いしたい。
教育部長	宮本	・教育委員会では長寿命化の計画を立てて、それによって適正に校舎の改修等の計 画を持っている。コミュニティスクールの場でそういう計画をお示しすることはできるので、 これからの機会でお知らせしていきたい。
委員長	14番 佐藤	・他に質疑あるか。
委員	1番 市川	・今回の教育方針で「中1ギャップ」に重点を置かれていると感じる。私の年代だと西春 別の小学校では14人位で、いじめなどはあまり無かったと感じているが、今は不登校や いじめと言えるかどうかかわからないようないじめが見受けられる感じがしていて、その辺が「 中1ギャップ」と言うよりは低学年位で起きていたような感じが見受けられて、その辺の ケアが、9年間一貫にすることによって、先生と生徒と保護者の三角関係が上手く繋がる

令和5年第5回総務文教常任委員会 要点記録

学校教育課長 池田	感じはあるか。
	・今の6年間・3年間というよりも、メリットとして考えられるのが9年間を通したときに、例えば、義務教育学校を1つの建物にしたときに、今まで小学校1年生から6年生までが居たのと、それが中学校3年生が居るということで、聞いたところによると、中学生が低学年の面倒を見ていて、そういうメリット且つ効果は聞いている。本人が不快感があればいじめになるが、いつでも認知するようにはしており、そういったことも考えながら9年間の義務教育小中一貫を推進しておりメリットと考えている。
委員 1番 市川	・地域の方から、どうしても郡部は家庭数が少なく、中々いじめと聞いていても言えなかったり、保護者間でも気を使って子供たちのそういう状況が隠れたりする話を聞いていたので、大きいお子さんが小さい子の面倒を見ることはすごく大事だと思う。心のケアに繋がるし、親子は仲が親密だが親だから言えない事もあると思うので、そういうメリット大きいと感じ安心した。
委員長 14番 佐藤	・他に質疑あるか。
副委員長 8番 田村	・小中一貫は準備が出来次第8年からスタートする。別海で言うと中央小学校が改修の時期になってきて、これが基本構想は済んでいてこれから基本計画・実施計画に進んでいくが、それを見越して8年からスタートする。ハードの面でも別海中央中学校もあり、ゾーニング的にも勘案しながら、どうハードやってくるのか考え方を聞きたい。 また、最後のページで学校の適正配置計画があるが、これは既に上風連・中西別・西春別は、人数的に検討する段階に入っているのに、まず適正配置計画を解決しないと、全部の地域のことを話しても、適正配置計画で統廃という話になったら困るのではないかと危惧している。これを改正したのは10年前で、その時は義務教育学校のことは加味していない適正配置計画で、これはある程度近日中に見直しや改正しないと、教育委員会として後々問題になると思うので、適正配置計画は10年前のものでやっていくのか、今回新しく小中一貫校をスタートするに配置計画は変えないのか伺いたい。
学務・スポーツ課長 斎藤	・中央学校区の状況について説明する。中央小学校も建設からかなりの年数が経っていて、昭和51年建設で46年経過しており、昨年度、中央小学校の改修工事の基本構想を策定している。その中で大規模改修や新築改築の検討もされているんですが、当然に別海中央中学校についても昭和58年に建設されていて、同じく近い将来建て替えの必要が生じる。このような状況とハードの面からも、小中一貫教育の推進計画に基づく義務教育学校進めていくという町の方針があり、中央学校区のPTAの小中学校の代表者や学校の先生などで組織している「未来サポート協議会」から、校舎一体型の義務教育学校の設立に関する要望書の提出があった。そういう面もあり現在は中央地区の義務教育一体型の義務教育学校の設立に向けて準備を進めていきたい。
教育部長 宮本	・配置計画の見直しは、今の現状に合っていない状況にある。中西別や上風連については、統廃合やそういった動きもCSやPTAを中心に議論しており、議論がまとまった段階で何らかの動きが出てくる。そういった部分も含めてこの適正配置計画は、今後協議検討していきたい。
副委員長 8番 田村	・CSやPTAで検討することは良いが、資料を見たら一目瞭然に生徒数の推移を見たら、自分達で詰めた基本計画・適正配置計画が、その時になったら検討して統廃合させるようになってるのに、地域の協議会でやると言ったら、これを破ってまでやることはおかしい話なので、先に配置計画を見直し、それに関わらない地域の協議会を活性化しないと、せっかく話をしても人数が足りないから統廃合する話にならざるを得ないかもしれない。ですので、改正するなら改正するとし、「今後検討」は時間がないので早急に取り組む必要があると思うが。
学校教育課長 池田	適正配置計画の中では、学校区が上風連・中西別・西春別の3地区が該当している。資料2のとおり、人数的にはも入っている状況にある。しかしながら、その配置計画の中では、「統廃合を望む意向であるならば」という、その地区の考えを尊重した形で行っている。CS等においてもこの小中一貫についても、その地域の色々な考え方があり、教育委員会で統廃合してくださいと言うことではなく、その地域で色々な議論してもらい、その上で統廃合及び小中一貫の方向にいくが、教育委員会としては小中一貫はメリットが

令和5年第5回総務文教常任委員会 要点記録

		あるので推進してますという形で行っている。これからも配置計画を見ながら色々協議していく。
副委員長	8番 田村	・基本方針の抜粋には「統廃合を望む意向がある場合は」とあるが、地域の少ない人数の意向で、学校建設も含めて、実態としてなりえるか。本別海の小中学校は地域の方が要らないという結論があったから実施したのか。
学校教育課長	池田	・本別海の別海小中学校が別海中央学校区に来たときには、そういう声が上がってきたということで認識している。
副委員長	8番 田村	・そうなると、地域で学校を残してほしいとなれば、何人でも学校を運営していくことになるが、やはり教育委員会として、町として、そういう訳にはいかないのではないかなと。ある程度は地元の意向というのは酌まなきゃならないが、保育園もそうだが人がいないと学校も厳しいことになるというようなことがあるので、ある程度は教育委員会の中で大まかにこれに基づいて説明をしないと。それをCSで協議してくださいという投げかけではまずい気がする。そこら辺を内部でもう少し詰めて、お互い地域ともうまくやらなければならないこともある。私的にはこっちを先に解決しないと、いくら地域で話をしても、適正配置の方で駄目になったら、可哀そうと思うところもあり発言した。
教育部長	宮本	・委員言われたように実態と合っていない部分もあるので、教育委員会内部でも協議させていただきたいと思います。
委員長	14番 佐藤	・他に何かあるか。
委員	一同	・なし
委員長	14番 佐藤	14:46 暫時休憩
委員長	14番 佐藤	14:52 再開 委員長挨拶
委員長	14番 佐藤	議事2 その他
委員長	14番 佐藤	(3) 生涯学習センター等管理運営について
生涯学習センター長	福原	・資料により説明
		・本年度の利用状況の概要について御説する。生涯学習センターは本年度スタートして2カ月が経過し、概ね昨年度同様の利用状況で推移している。生涯学習センターでは定期的な利用団体のほか、新たに利用希望団体があるなど、施設利用希望者が増加傾向にあるように伺える。町民の憩いの場としての工夫として、ホワイエやギャラリーでの写真あるいは展示行など、来館者が増加傾向にある状況。
		・青少年プラザは、昨年度同様に比較的小規模なコンサートが早々開催され、本年度から生涯学習課に配置となった地域おこし協力隊が主で行っている放課後留学などにより、放課後や休日等に子供たちの利用も増加傾向にある。
		・6月2日に中西別サツキ展を皮切りに開催している第45回別海町中央公民館祭りは、6月11日に館長杯争奪囲碁大会、その後16日から18日まで開催した作品展では、車いすの方などもゆっくり鑑賞いただけるよう、展示方法の工夫をした結果、昨年度の約2倍の672名の来場があった。さらには今年度初の試みとして、郷土資料館が中心となり実施した国鉄標津線鉄道模型展などを実施するとともにお茶会を実施。この間総勢で1000名を超える方々が来館し春の芸術を堪能していただいた。これまでになかった感想などを自由に書き込んでいただけるようなブースも用意するなど、専用スペースを設け数多くの感想をいただいたところ。これからも多くの方々に愛され利用や来館される町民のコミュニティーの場「みなくる」として、知恵と創意工夫を持って取り組んでいきたい。1点確認だが、利用件数が全体で2864件、定額使用料が712万5880円、そして免除額があり、実際に町に使用料として入ってくるのは104万6440円か。
副委員長	8番 田村	・規則等で基準が決まっており、それに基づいて減免申請を受けて許可され、実際に入ってくるのは、104万位の状況。
生涯学習センター長	福原	・他に何かあるか。
委員長	14番 佐藤	・本年度のパイロットマラソンの関係について御報告させていただく。第45回の別海町パイロットマラソンを、10月1日に開催する。5月25日からフルマラソン、健康マラソンの参加申し込み受付けを開始し、7月31日までを申し込み期限として現在受付けを行っている。現在の申し込み状況は、6月18日現在でフルマラソンが453名、健康マラソンが
学務・スポーツ課長	斎藤	

令和 5 年第 5 回総務文教常任委員会 要点記録

			25名の合計で478名の申し込み状況。昨年度開催した第44回大会では、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した「秋味鍋」の提供と例年大会終了後に開催していたコミュニティセンターでの焼き肉交流会も、今年度は復活することが決定している。また、本大会初めての試みだが、参加人数増を目的にふるさと納税の返戻品として、パイロットマラソンへの参加の出走権を加えている。人数枠は100名として受け付けを行っている。10月1日の大会実施に向けて、参加者・ボランティアが安心して参加できるように準備を進めていきたい。
委員長	14番	佐藤	・他に何かあるか。
委員		一同	・なし
委員長	14番	佐藤	閉会挨拶
委員長	14番	佐藤	15:03 閉会